

平成27年度前期 授業改善アンケート 質問項目

【選択肢】

A そのとおりだと思う B どちらかといえば、そう思う C どちらかといえば、そう思わない D そう思わない

【設問】

	no.	設 問
学 生	1	シラバスで授業内容を確認しましたか
	2	教室では授業に積極的に取り組みましたか
	3	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか
	4	あなたはシラバスに示された「到達目標」を達成しましたか
授 業	内 容	5 授業はシラバスに記載された内容で行われましたか
		6 あなたは授業内容を理解できましたか
	教 え 方 等	7 教員の説明は明快でしたか
		8 教員の話は良く聞き取れましたか
		9 授業の進め方は、内容等を理解する上で効果的でしたか
大学からの質問	環境・設備等	10 学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか
		11 参考書等が図書館に揃っていますか

1.概評

全項目において、ほとんどの科目が肯定的な評価（A＋B）を得ており、おおむね良好な数値と考える。しかし、他学科の肯定的な評価（A＋B）の平均値と比較すると、僅かではあるが見劣りする項目が殆どである。更に顕著な差のある項目は、授業外で学習をしたかを問うno.3で、Aのみでは10.4、A＋Bでは8.6の差がある。この数値は、残念ながら学生の専門科目と一般教養科目取り組みの差を如実に示すものである。専門科目と一般教養科目を並行して履修する現在の履修方法では、学生心理として専門科目を優先させるのは至極当然とは言える。こうした傾向の是正は、学生の知的関心を刺激する「面白い」科目内容を、どれだけ多く提供できるかに専ら掛かっている。なお今回は評価・分析は、通時的にはできないので、大学全体の評価数値とのみ比較を行った。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	0.9 (1)	2.7 (3)	19.5 (22)	29.2 (33)	29.2 (33)	13.3 (15)	3.5 (4)	0.9 (1)	0.9 (1)	[学生] 授業内での積極的な取り組みを問うno. 2、授業外学習を問うno. 3、到達目標を問うno. 4のA評価の数値は、全体と比べると、それぞれ9.1、10.4、5.7ポイント低い数値となっている。この数字は、概評で述べた専門科目と教養科目の取り組みの差を表わしている。打開策としては、シラバスや日頃の授業において具体的、明確に準備学習や到達目標を示すことが大切である。
	0.9 (1)	0.9 (1)	8.8 (10)	41.6 (47)	35.4 (40)	11.5 (13)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	7.1 (8)	11.5 (13)	27.4 (31)	17.7 (20)	13.3 (15)	11.5 (13)	5.3 (6)	4.4 (5)	1.8 (2)	
	1.8 (2)	4.4 (5)	7.1 (8)	11.5 (13)	19.5 (22)	43.4 (49)	11.5 (13)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	2.7 (3)	2.7 (3)	12.4 (14)	18.6 (21)	13.3 (15)	23.0 (26)	17.7 (20)	8.0 (9)	0.9 (1)	0.9 (1)	
	1.8 (2)	2.7 (3)	18.6 (21)	35.4 (40)	31.0 (35)	8.8 (10)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	3.5 (4)	15.0 (17)	31.0 (35)	24.8 (28)	15.0 (17)	8.0 (9)	0.0 (0)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.9 (1)	
	0.9 (1)	0.0 (0)	1.8 (2)	1.8 (2)	19.5 (22)	46.0 (52)	26.5 (30)	1.8 (2)	1.8 (2)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.9 (1)	5.3 (6)	13.3 (15)	21.2 (24)	27.4 (31)	16.8 (19)	11.5 (13)	1.8 (2)	1.8 (2)	[授業[内容]] 二つの項目についても、「学生」の欄で述べたことと同様のことが言える。両項目のA評価は、シラバスに従った授業であったかを問うno. 5、授業の理解を問うno. 6は、全体の数値と比較すると、それぞれ3.5、4.3低い数値となっている。但し、A＋Bの評価の値は、95.3、90.5で全体との差は殆どない。特にシラバスと授業の内容に乖離はほぼないという評価である。
	1.8 (2)	3.5 (4)	10.6 (12)	24.8 (28)	34.5 (39)	20.4 (23)	3.5 (4)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.9 (1)	6.2 (7)	13.3 (15)	15.9 (18)	17.7 (20)	17.7 (20)	9.7 (11)	13.3 (15)	3.5 (4)	1.8 (2)	
	1.8 (2)	3.5 (4)	12.4 (14)	18.6 (21)	32.7 (37)	26.5 (30)	3.5 (4)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.9 (1)	1.8 (2)	10.6 (12)	8.8 (10)	14.2 (16)	17.7 (20)	18.6 (21)	11.5 (13)	13.3 (15)	2.7 (3)	[授業[教え方等]] 同じく、教え方についてのno. 7、no. 8、no. 9のA評価の数値は、全体と比べそれぞれ5.2、5.1、4.9下回っている。A＋Bの評価では、各々92.2、92.4、91.5と決して悪い数値ではない。講義科目が主体の教養科目では取り組み困難ではあるが、アクティブラーニング、プロジェクト学習、ピアサポート等についてどのようなことが可能か可能性を探りたい。
	3.5 (4)	14.2 (16)	15.0 (17)	24.8 (28)	28.3 (32)	11.5 (13)	2.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.9 (1)	4.4 (5)	13.3 (15)	11.5 (13)	15.0 (17)	23.9 (27)	11.5 (13)	15.9 (18)	3.5 (4)	
	4.4 (5)	13.3 (15)	21.2 (24)	32.7 (37)	21.2 (24)	6.2 (7)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	1.8 (2)	10.6 (12)	13.3 (15)	11.5 (13)	23.0 (26)	15.0 (17)	12.4 (14)	9.7 (11)	2.7 (3)	
	2.7 (3)	9.7 (11)	19.5 (22)	23.0 (26)	28.3 (32)	15.9 (18)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	10.6 (12)	15.9 (18)	35.4 (40)	23.0 (26)	6.2 (7)	4.4 (5)	3.5 (4)	[環境・設備等] no. 10、no. 11に關しても、A評価について言えば、全体よりもそれぞれ9.4、7.4相当に劣っている。弁解めいて恐縮だが、一般教養科目の分野が多岐にわたることが主な要因と言える。図書の推薦をこれまで以上に先生方に積極的にお願いしていきたい。
	3.5 (4)	5.3 (6)	20.4 (23)	44.2 (50)	22.1 (25)	3.5 (4)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.9 (1)	15.9 (18)	34.5 (39)	23.9 (27)	18.6 (21)	5.3 (6)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.9 (1)	2.7 (3)	3.5 (4)	24.8 (28)	30.1 (34)	31.0 (35)	6.2 (7)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

今期は行わなかったが、今回の分析を通して判明した負の部分の解消のためにも、センター独自の設問を作成したい。

4.今後の方針

上の分析で述べたように、学生の教養科目に対する評価が専門科目と比し、概ね低い数値にとどまっているという事実を共有し、センターとしても、教員個人としても更なる詳細な分析を行い、有効な方策を打ち出していきたい。

1.概評

全ての項目について高い評価であるので今までの方針を維持しながら効果を高める方法を模索できればと思う。外国語は到達目標が明確化されているのでいい授業内容やいい環境・設備の提供は学生の学習意欲や結果に密接することがわかる。ただ、シラバスで明記している到達目標と実際の授業理解度についてはもっと分析する必要もあると考えられる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.5 (1)	1.0 (2)	12.1 (25)	27.2 (56)	20.4 (42)	19.4 (40)	11.7 (24)	3.9 (8)	2.9 (6)	1.0 (2)	[学生] 学生に関連する項目no 1～3ではA評価をした学生の割合よりB評価をした学生の割合がやや上回っているのに比べてno 4ではA評価をした学生の割合が圧倒的に多い。学生は、教師から指示された小テストのための勉強を含めて課題などには真面目に取り組んでいると考えられるのでシラバスの確認と共に到達目標に達成できることを示し、出席状況を高めることから積極的に授業に取り組めるようにするのが重要である。
	1.5 (3)	5.3 (11)	7.8 (16)	23.3 (48)	28.6 (59)	25.7 (53)	6.8 (14)	1.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	1.0 (2)	8.7 (18)	12.6 (26)	19.4 (40)	20.9 (43)	19.4 (40)	10.2 (21)	5.8 (12)	1.9 (4)	
2	2.4 (5)	4.4 (9)	14.1 (29)	22.3 (46)	20.4 (42)	21.8 (45)	11.2 (23)	3.4 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.5 (1)	4.9 (10)	12.1 (25)	18.0 (37)	22.3 (46)	22.3 (46)	12.1 (25)	5.8 (12)	1.9 (4)	
3	2.4 (5)	6.8 (14)	20.4 (42)	21.4 (44)	26.7 (55)	16.0 (33)	4.9 (10)	1.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	7.3 (15)	21.8 (45)	28.6 (59)	22.8 (47)	10.2 (21)	5.3 (11)	1.5 (3)	1.0 (2)	0.5 (1)	1.0 (2)	
4	1.5 (3)	0.0 (0)	1.5 (3)	6.3 (13)	12.1 (25)	29.6 (61)	30.6 (63)	15.5 (32)	2.4 (5)	0.5 (1)	
	1.0 (2)	1.9 (4)	6.8 (14)	15.5 (32)	16.5 (34)	23.3 (48)	15.5 (32)	10.2 (21)	5.8 (12)	3.4 (7)	[授業[内容]] 全体的にA評価よりB評価のほうがやや高い傾向である。外国語の授業は語学を覚えていく内容なので段階的に進めていくことになる。前回の授業との関連性が高いため授業内容を理解するためには課題などを通して学生の復習に徹底する方法も考えられる。
5	3.4 (7)	6.3 (13)	12.6 (26)	18.0 (37)	23.8 (49)	22.8 (47)	8.3 (17)	3.4 (7)	1.0 (2)	0.5 (1)	
	0.5 (1)	5.8 (12)	10.7 (22)	17.5 (36)	18.4 (38)	18.9 (39)	11.2 (23)	9.7 (20)	4.4 (9)	2.9 (6)	
6	2.4 (5)	5.3 (11)	10.7 (22)	19.9 (41)	22.3 (46)	27.2 (56)	8.3 (17)	3.9 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	2.4 (5)	9.7 (20)	6.8 (14)	10.7 (22)	15.0 (31)	14.6 (30)	13.6 (28)	15.5 (32)	11.7 (24)	[授業[教え方等]] no 7でA Bの肯定評価が高いが、no 6の肯定評価と比較してみると説明は明快と考えているがそれを理解できるまでは差があるように思われる。しかし、no 7と8はA評価とB評価の傾向は似ていることから授業内容をよく理解して話もよく聞きとれると認識していると考えられる。No9のデーターからみると適切な資料選びや提示の仕方が重要な要素であると考えられる。
7	11.2 (23)	16.5 (34)	18.0 (37)	21.4 (44)	15.5 (32)	11.7 (24)	4.9 (10)	1.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	1.5 (3)	7.3 (15)	8.3 (17)	7.3 (15)	13.1 (27)	15.5 (32)	15.5 (32)	16.0 (33)	15.5 (32)	
8	15.0 (31)	14.6 (30)	23.8 (49)	20.4 (42)	11.7 (24)	9.2 (19)	4.4 (9)	1.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	5.3 (11)	7.3 (15)	9.2 (19)	8.7 (18)	21.8 (45)	12.6 (26)	13.6 (28)	12.1 (25)	9.2 (19)	
9	9.7 (20)	13.1 (27)	17.5 (36)	18.9 (39)	21.8 (45)	14.1 (29)	3.9 (8)	0.5 (1)	0.5 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.9 (8)	5.3 (11)	18.0 (37)	24.8 (51)	18.0 (37)	21.4 (44)	8.7 (18)	[環境・設備等] no10では学習環境に関しては高い評価が多い反面no11ではB評価のほうがやや高かったので学生に参考図書や学習できる環境を提供できるように充実させるすぐに学生の意欲にもつながるものと考えられる。
10	10.2 (21)	22.3 (46)	20.9 (43)	24.3 (50)	15.0 (31)	5.8 (12)	1.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	1.9 (4)	5.3 (11)	10.7 (22)	24.8 (51)	18.9 (39)	19.4 (40)	11.7 (24)	2.9 (6)	3.4 (7)	1.0 (2)	
11	3.9 (8)	2.9 (6)	6.8 (14)	19.4 (40)	25.7 (53)	28.6 (59)	7.8 (16)	3.4 (7)	1.5 (3)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

外国語習得は語学を覚えることがまずやるべきことだが、語学の学習が色々な学習にも関連付けられると思われる。

4.今後の方針

今年度から評価方法が各科目とのABという肯定的な関連性を示すように変わったのでまずはその内容をよく確認し、改善すべきものは何かを分析することであると思われる。全体的には肯定的評価だが否定的な評価も参考にしなければならない。シラバスや成績結果などを分析し、対策を検討する。

1.概評

各項目の肯定率が90%以上であり、特に授業について（No.5～9）は97%を上回っており、全体的には大変良好だと言える。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	13.8 (4)	24.1 (7)	17.2 (5)	27.6 (8)	10.3 (3)	3.4 (1)	【学生】 いずれの項目も、大学全体に比べて、肯定的評価が高い。ただNo.3とNo.4は否定的評価が比較的多くなっている。（各々、6.1%と3.9%） 授業外の学習については、反転授業的に事前準備を行わせたり、自ら調べてまとめさせたりするといった、課題の提示の方法に一層の工夫が必要である。 「到達目標」については、学生自身が自らの目標を設定することで、明確化し、より意識的にそれに向かって学んでいくようにすることが必要である。
	3.4 (1)	13.8 (4)	34.5 (10)	20.7 (6)	20.7 (6)	6.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	0.0 (0)	27.6 (8)	10.3 (3)	37.9 (11)	6.9 (2)	13.8 (4)	
	10.3 (3)	10.3 (3)	37.9 (11)	13.8 (4)	24.1 (7)	3.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	3.4 (1)	10.3 (3)	20.7 (6)	24.1 (7)	20.7 (6)	13.8 (4)	3.4 (1)	
	6.9 (2)	13.8 (4)	17.2 (5)	44.8 (13)	17.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.0 (0)	6.9 (2)	17.2 (5)	27.6 (8)	20.7 (6)	20.7 (6)	3.4 (1)	0.0 (0)	3.4 (1)	
	3.4 (1)	0.0 (0)	10.3 (3)	10.3 (3)	31.0 (9)	31.0 (9)	13.8 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	3.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	27.6 (8)	20.7 (6)	20.7 (6)	17.2 (5)	6.9 (2)	【授業[内容]】 この項目については殆どすべて肯定的な回答になっているので、これを維持できるよう、今後も努力する。ただ学生の自由記述の中ではいくつかの問題も指摘されているので、そのような点は教職課程全体として改善を図っていく。
	6.9 (2)	13.8 (4)	24.1 (7)	27.6 (8)	20.7 (6)	3.4 (1)	3.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	10.3 (3)	20.7 (6)	17.2 (5)	20.7 (6)	24.1 (7)	6.9 (2)	
	6.9 (2)	24.1 (7)	24.1 (7)	17.2 (5)	24.1 (7)	3.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	6.9 (2)	13.8 (4)	31.0 (9)	13.8 (4)	31.0 (9)	
	27.6 (8)	24.1 (7)	27.6 (8)	10.3 (3)	10.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	【授業[教え方等]】 この項目も殆どが肯定的評価となっているが、学生の自由記述では、話が聞き取りにくい、説明の仕方が分かりにくいといった指摘や、試験方法についての疑問も出されているので、個別に、あるいは教職課程として向上に取り組んでいく。
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	6.9 (2)	3.4 (1)	27.6 (8)	27.6 (8)	31.0 (9)	
	27.6 (8)	34.5 (10)	24.1 (7)	10.3 (3)	3.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.4 (1)	13.8 (4)	20.7 (6)	20.7 (6)	10.3 (3)	31.0 (9)	
	27.6 (8)	17.2 (5)	20.7 (6)	27.6 (8)	6.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	34.5 (10)	37.9 (11)	10.3 (3)	17.2 (5)	【環境・設備等】 科目によっては、図書館の資料が十分でないという割合が比較的多いものもあった。今後は、担当教員から必要な資料を示してもらい、可能な限り図書館に揃えるようにしていく。
	17.2 (5)	24.1 (7)	37.9 (11)	20.7 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	6.9 (2)	20.7 (6)	41.4 (12)	24.1 (7)	6.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	17.2 (5)	48.3 (14)	31.0 (9)	0.0 (0)	3.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教職課程は、当然のことながら教員免許取得を希望する学生が履修するものである。ただ将来への志望や意識、動機づけや問題意識は多様であり、教員志望ということを保ずしも前提とできないという事情はある。しかし教員免許を取得することは、教壇に立てる資格を得ることであり、卒業後の進路として教員以外を考えている場合でも、教員として必要な能力や知識を身につけて置くことが必要であるという点は、学生に十分周知し、理解を得る。

授業についての大きな問題はないと思われる。「教えること」を教える科目であるので、授業内容と同時に「方法」「教師の姿勢」をも伝えることが重要である。

4.今後の方針

3を踏まえて、第一に、比較的少人数の授業が多いという利点を活かして、集団と個別の指導のバランスを図るよう、教職課程として意思を統一していく。

第二に、教職課程で策定している「カリキュラムポリシー」「キャリアデザインポリシー」を個々の授業に反映していくように、担当教員の共通理解を図る。

そして第三に、教育委員会や現場との組織的な結びつきを一層拡大・深化させ、実践的指導力を備えた教員の育成を目指すとともに、自ら教員像を築いていく力を持つ学生を育てていく。

1.概評

全ての項目において肯定的な評価が90%を超えており、集計方法が変わっても、本学科では全体的に良好な結果を維持していると言える。但し、集計方法の変更により、見えてきた課題もある。例えば、教え方に対する高評価に対し、学生の到達目標達成度や授業理解度がやや低めである点である。これについては複合的な要因が考えられるため、経年比較をもって見定めてゆく必要がある。そのベースとして、各授業における弛まぬ具体的改善と、教員間の情報共有に努めることが肝要である。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	2.6 (3)	7.0 (8)	18.3 (21)	26.1 (30)	28.7 (33)	11.3 (13)	4.3 (5)	1.7 (2)	[学生] no.1-3は、A評価をした学生の割合が50%以上を占める授業が半数を上回り、B評価の割合より多いが、no.4のみB評価をした学生の割合の方が高い。もう少し細かく見ると、no.2,3ともにB評価の割合が50%以上を占める授業の割合が20%を超えている。ここから、学生は概ね真面目に授業を受けている容子であるものの、学習に対する積極的態度がやや弱く、目標達成度に関しては確信に欠けるようである。授業への期待値や難易度とのミスマッチから、学生自身が自己を厳しく評価しているとも考えられるが、まずは各授業の「到達目標」を明示することが肝要である。
	1.7 (2)	10.4 (12)	14.8 (17)	40.0 (46)	19.1 (22)	12.2 (14)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	4.3 (5)	7.0 (8)	9.6 (11)	14.8 (17)	20.0 (23)	20.0 (23)	18.3 (21)	6.1 (7)	0.0 (0)	
	1.7 (2)	5.2 (6)	21.7 (25)	20.0 (23)	22.6 (26)	20.0 (23)	7.0 (8)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.9 (1)	2.6 (3)	5.2 (6)	11.3 (13)	14.8 (17)	14.8 (17)	18.3 (21)	19.1 (22)	6.1 (7)	7.0 (8)	
	7.8 (9)	7.8 (9)	27.0 (31)	20.0 (23)	17.4 (20)	17.4 (20)	2.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	2.6 (3)	15.7 (18)	19.1 (22)	19.1 (22)	24.3 (28)	12.2 (14)	5.2 (6)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	1.7 (2)	0.9 (1)	7.8 (9)	18.3 (21)	36.5 (42)	21.7 (25)	12.2 (14)	0.9 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	2.6 (3)	5.2 (6)	5.2 (6)	7.8 (9)	21.7 (25)	25.2 (29)	16.5 (19)	8.7 (10)	7.0 (8)	[授業[内容]] no.5に関しては、A評価をした学生の割合が50%以上を占める授業数は80%近くまで到り、そのうち60%以上を占める授業数が57.4%と半数を上回っている。本学科の授業は概ねシラバスどおりに展開していると評価されている。 一方、no.6については、A評価をした学生の割合が60%以上を占める授業数は39.1%とやや下降し、逆にB評価をした学生の割合が増している。計画性および実行性の高い本学科の授業においては、学生の理解定着を促す「間」を設けてもよいかも知れない。
	7.8 (9)	5.2 (6)	26.1 (30)	25.2 (29)	20.0 (23)	12.2 (14)	3.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	9.6 (11)	6.1 (7)	10.4 (12)	15.7 (18)	19.1 (22)	15.7 (18)	13.9 (16)	8.7 (10)	0.9 (1)	
	2.6 (3)	7.8 (9)	19.1 (22)	20.9 (24)	20.0 (23)	20.9 (24)	6.1 (7)	1.7 (2)	0.9 (1)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	6.1 (7)	3.5 (4)	8.7 (10)	7.8 (9)	7.8 (9)	12.2 (14)	20.9 (24)	21.7 (25)	11.3 (13)	[授業[教え方等]] no.7,8に関しては、A評価をした学生の割合が70%以上を占める授業数が半数を上回る高評価を得ている。しかし、no.9においては、これが60%以上のラインに下がる。no.4の目標達成度およびno.6の理解度に関する評価傾向と連動していると考えられるべきであろう。教授法の高評価に対し、達成度や理解度が抑えて評価されているのは、既に記したとおり、学生の厳しい自己評価の結果と考えられないわけではないが、no.7,8の質問だけでは可視化しない課題点がある可能性もある。今後、「学科の事情に応じた独自分析」の活用を試みたい。
	12.2 (14)	22.6 (26)	26.1 (30)	17.4 (20)	13.0 (15)	7.8 (9)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	5.2 (6)	1.7 (2)	4.3 (5)	6.1 (7)	9.6 (11)	13.9 (16)	16.5 (19)	22.6 (26)	20.0 (23)	
	20.0 (23)	25.2 (29)	23.5 (27)	14.8 (17)	11.3 (13)	3.5 (4)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	3.5 (4)	3.5 (4)	2.6 (3)	8.7 (10)	7.0 (8)	15.7 (18)	13.0 (15)	13.0 (15)	20.0 (23)	13.0 (15)	
	13.9 (16)	19.1 (22)	18.3 (21)	21.7 (25)	13.9 (16)	10.4 (12)	2.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.6 (3)	7.8 (9)	13.0 (15)	26.1 (30)	25.2 (29)	14.8 (17)	10.4 (12)	[環境・設備等] no.10は、A評価をした学生の割合が70%以上を占める授業が半数を上回っており、問題や不満が皆無とはいえないにせよ、概ね満足している容子が窺える。 一方、no.11は、A評価をした学生の割合が50%以上を占める授業が半数を上回っているものの、B評価をした学生の割合が50%以上を占める授業数も、22.6%と比較的多い。各授業で、参考文献の周知徹底が必要である。
	11.3 (13)	20.0 (23)	34.8 (40)	27.0 (31)	6.1 (7)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	12.2 (14)	15.7 (18)	14.8 (17)	27.0 (31)	19.1 (22)	7.8 (9)	0.0 (0)	3.5 (4)	
	4.3 (5)	0.9 (1)	20.0 (23)	25.2 (29)	27.0 (31)	15.7 (18)	7.0 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

旧アンケートでは学科独自の質問を行っていたが、今期は選択肢数の調整や問の見直しの必要が生じ実施を見送った。後期分から再度学科独自の設問を設け、分析を行う予定である。

4.今後の方針

今年度から集計が、「各項目の肯定的(A, B)な評価の割合ごとの科目数の割合」に変更となったため、まずは教員各自がそれぞれの結果をよくよく吟味し、改善点を見出すことが第一である。概評に記したように、全体としては肯定的評価が大勢を占めるが、否定的評価が皆無ではないことも忘れてはならない。教授法を考えるとともに、学生の傾向・課題点などの情報共有に努めるため、常勤教員は科会等で密に報告を行い、非常勤の先生方にはアンケートを実施する。

1.概評

今回の学科平均は全体平均をすべての項目で上回っており、その点を考慮すると、今学科の評価は満足できるものと考えている。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.6 (1)	1.1 (2)	3.4 (6)	10.1 (18)	10.7 (19)	23.0 (41)	21.9 (39)	15.2 (27)	7.3 (13)	6.7 (12)	【学生】 4項目の中で、設問3(授業外学習)への答えが全体平均を3.3ポイント上回っており、1単位あたりの学習量を増やすという大学の目標を実現している。その他の項目も全体平均を上回っており、これまでの取り組みを継続していきたいと考えている。
	5.6 (10)	12.4 (22)	24.7 (44)	32.0 (57)	15.7 (28)	9.0 (16)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.6 (1)	0.6 (1)	6.7 (12)	6.2 (11)	19.7 (35)	23.6 (42)	21.3 (38)	10.7 (19)	10.7 (19)	
	8.4 (15)	14.0 (25)	25.3 (45)	25.8 (46)	12.9 (23)	10.1 (18)	3.4 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.9 (7)	4.5 (8)	13.5 (24)	20.2 (36)	21.3 (38)	23.0 (41)	13.5 (24)	
	12.9 (23)	27.0 (48)	27.5 (49)	16.9 (30)	11.8 (21)	3.9 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	4.5 (8)	9.6 (17)	15.2 (27)	18.0 (32)	18.0 (32)	14.6 (26)	8.4 (15)	5.6 (10)	6.2 (11)	
	5.1 (9)	5.6 (10)	12.4 (22)	20.8 (37)	24.2 (43)	19.7 (35)	7.9 (14)	4.5 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.6 (1)	1.7 (3)	2.8 (5)	2.2 (4)	5.6 (10)	15.2 (27)	20.8 (37)	20.2 (36)	16.3 (29)	14.6 (26)	【授業[内容]】 2項目とも全体的に良好であるが、低い評価を得ている科目がみられることが気になる点である。
	14.6 (26)	19.1 (34)	19.7 (35)	25.8 (46)	12.4 (22)	6.2 (11)	1.7 (3)	0.0 (0)	0.6 (1)	0.0 (0)	
6	0.6 (1)	1.7 (3)	3.9 (7)	4.5 (8)	10.7 (19)	14.0 (25)	21.9 (39)	15.2 (27)	10.7 (19)	16.9 (30)	
	15.7 (28)	11.2 (20)	20.8 (37)	28.7 (51)	13.5 (24)	6.7 (12)	3.4 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	4.5 (8)	3.4 (6)	5.1 (9)	2.8 (5)	12.9 (23)	14.0 (25)	12.4 (22)	23.6 (42)	21.3 (38)	
	21.3 (38)	22.5 (40)	18.0 (32)	20.2 (36)	9.6 (17)	7.9 (14)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	【授業[教え方等]】 英語科目を教えているという特性を考えると、全項目で高い評価を得ていることは満足できることである。しかしながら、内容と同様に、低い評価を得ている科目がみられることが気になる点である。
8	0.0 (0)	2.8 (5)	3.4 (6)	2.2 (4)	5.6 (10)	9.0 (16)	15.2 (27)	12.4 (22)	21.9 (39)	27.5 (49)	
	27.0 (48)	23.6 (42)	18.5 (33)	17.4 (31)	7.3 (13)	5.6 (10)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.6 (1)	3.4 (6)	2.2 (4)	6.7 (12)	7.9 (14)	7.3 (13)	15.7 (28)	16.9 (30)	18.0 (32)	21.3 (38)	
	21.3 (38)	20.2 (36)	20.8 (37)	19.1 (34)	10.1 (18)	6.7 (12)	1.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (2)	2.8 (5)	4.5 (8)	9.6 (17)	14.0 (25)	24.2 (43)	23.0 (41)	20.8 (37)	【環境・設備等】 2項目とも全体平均を上回っているものの、設問11(参考書等が図書館に揃っているか)は評価が最も低く、唯一A+Bが90%を割り込んでいる。Graded Readerなど既存資料を紹介するなどの取り組みを行う一方、年2回ある学生向けの図書を図書館に推薦する機会をもっと活用するように教員に周知していきたい。
	21.3 (38)	29.8 (53)	27.0 (48)	12.4 (22)	3.9 (7)	5.1 (9)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.6 (1)	1.1 (2)	4.5 (8)	12.4 (22)	15.7 (28)	14.0 (25)	26.4 (47)	11.8 (21)	6.2 (11)	7.3 (13)	
	10.1 (18)	13.5 (24)	21.9 (39)	25.3 (45)	15.2 (27)	11.2 (20)	2.2 (4)	0.6 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

[授業[教え方等]]の項目にも書いたが、英語科目を教えている学科でありながらも、教え方について高い評価であった点は評価していきたい。しかし一方で、内容・教え方とも低い評価を受けている科目もあるので、学科としてFDや会議などを通して教授方法の質を高める必要がある。

4.今後の方針

授業内容、教え方の評価を高めていくためにも、非常勤を含めたFD活動を行う必要があると感じている。統一シラバスで行っている授業もあるため、非常勤の先生方もこれまで以上に学科の教育方針に関わりを持っていただき、学科として教育の質を高めていきたい。

1.概評

前期開設科目のうち90科目（複数教員担当授業も1科目としてカウント）でアンケートを実施した。全体の傾向と学科の傾向を比較すると、全体の結果よりも評価が低い項目は1（問11）項目であり、2項目（問 1、問 7）で全体を上回った。授業改善の効果が定着しつつあることが伺える。特に、昨年前期にポイントが低かった「シラバス通りの授業運営」については評価が上がっており、さらに今期「教員の説明が明快」であったとの評価が全体の結果と比べて高いことから授業改善がより良い方向で進んでいると評価したい。 その一方で、長年の課題である環境と設備面では、今期も設備面での評価が低い。引き続き、図書館へ積極的に要望して行くと共に、参考文献の探し方についての指導を工夫して行きたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	8.7 (8)	14.1 (13)	29.3 (27)	23.9 (22)	12.0 (11)	8.7 (8)	2.2 (2)	[学生] 登録に際してシラバスを確認する項目でポイントが平均を上回った背景には、履修登録方法が定着したことが上げられる。ただし、必修科目ではポイントが低い傾向が見られる。担当者の他の科目においては異なる結果であることから、必修科目に対する学生の意識の問題であると考えられる。今回から導入された「目標達成」については、全体平均と同じではあったが、数値自体が低いため、授業担当者も目標設定を明確にし、学生が学習意欲と満足を得るような工夫が必要であると言える。
	3.3 (3)	8.7 (8)	21.7 (20)	29.3 (27)	25.0 (23)	8.7 (8)	3.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	1.1 (1)	4.3 (4)	6.5 (6)	13.0 (12)	22.8 (21)	14.1 (13)	15.2 (14)	13.0 (12)	4.3 (4)	5.4 (5)	
	5.4 (5)	7.6 (7)	13.0 (12)	15.2 (14)	22.8 (21)	21.7 (20)	9.8 (9)	4.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.1 (1)	7.6 (7)	13.0 (12)	15.2 (14)	15.2 (14)	20.7 (19)	12.0 (11)	9.8 (9)	5.4 (5)	
	6.5 (6)	10.9 (10)	18.5 (17)	26.1 (24)	22.8 (21)	13.0 (12)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	2.2 (2)	7.6 (7)	20.7 (19)	22.8 (21)	20.7 (19)	12.0 (11)	8.7 (8)	1.1 (1)	4.3 (4)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	4.3 (4)	3.3 (3)	13.0 (12)	13.0 (12)	33.7 (31)	23.9 (22)	8.7 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	1.1 (1)	6.5 (6)	8.7 (8)	10.9 (10)	26.1 (24)	18.5 (17)	13.0 (12)	12.0 (11)	3.3 (3)	[授業[内容]] 昨年度前期は全体平均よりポイントが低い項目も存在したが、今期は全体平均と同じであった。担当者による授業の改善が行われたと評価したい。複数の授業で評価がやや低い担当者については引き続き学科から改善の申し入れを行ってゆく。
	4.3 (4)	10.9 (10)	17.4 (16)	20.7 (19)	29.3 (27)	12.0 (11)	4.3 (4)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.1 (1)	5.4 (5)	6.5 (6)	14.1 (13)	14.1 (13)	20.7 (19)	14.1 (13)	7.6 (7)	10.9 (10)	5.4 (5)	
	5.4 (5)	10.9 (10)	14.1 (13)	18.5 (17)	20.7 (19)	21.7 (20)	5.4 (5)	3.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.1 (1)	3.3 (3)	2.2 (2)	9.8 (9)	12.0 (11)	20.7 (19)	9.8 (9)	13.0 (12)	16.3 (15)	12.0 (11)	
	15.2 (14)	16.3 (15)	14.1 (13)	16.3 (15)	23.9 (22)	7.6 (7)	6.5 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.1 (1)	6.5 (6)	5.4 (5)	9.8 (9)	16.3 (15)	14.1 (13)	16.3 (15)	16.3 (15)	14.1 (13)	
	15.2 (14)	17.4 (16)	17.4 (16)	22.8 (21)	15.2 (14)	9.8 (9)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	2.2 (2)	6.5 (6)	8.7 (8)	15.2 (14)	19.6 (18)	10.9 (10)	15.2 (14)	8.7 (8)	13.0 (12)	
	14.1 (13)	12.0 (11)	16.3 (15)	15.2 (14)	26.1 (24)	10.9 (10)	5.4 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	12.0 (11)	5.4 (5)	16.3 (15)	27.2 (25)	14.1 (13)	14.1 (13)	8.7 (8)	[環境・設備等] 前年度前期と比べると参考書の充実についての評価が低く、前年度後期に比べるといずれもポイントを上げている。学習環境については、適正な教室の確保に尽力しているが、今後も可能な限り改善して行きたい。また、必要図書を教員・学生から要望する活動も継続して行きたい。
	9.8 (9)	16.3 (15)	25.0 (23)	27.2 (25)	18.5 (17)	3.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.1 (1)	2.2 (2)	7.6 (7)	23.9 (22)	30.4 (28)	18.5 (17)	13.0 (12)	1.1 (1)	1.1 (1)	1.1 (1)	
	6.5 (6)	2.2 (2)	12.0 (11)	17.4 (16)	35.9 (33)	21.7 (20)	4.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

参考書の充実については、特に1年次必修科目の歴史文化基礎での評価が低い。全員が異なるテーマでの調査・発表が課題となっているため、それぞれのテーマに合致する参考書がない、と感じたことによるものと考えられる。参考文献の探し方についてさらに指導を徹底し、テーマによっては地域図書館の利用が有効であることも周知して行きたい。各学年の学科必修科目、資格にかかわる必修科目では、シラバスの事前確認や積極的な取り組み、授業の理解に対する評価が低く出る傾向がある。このことは、授業内容、担当者の工夫の余地はあるかと思われるが、学生の意識によるところも大きいと考えられる。同じ担当者の他の科目において異なる結果が出ることから裏付けられる。必修科目の見直しを行うと共に、学生に必修の意義を伝えることを心掛けて、学習意欲や満足を得られる取組をすることが求められる。

4.今後の方針

現状を維持しつつ、評価の低い項目については学科で情報を共有し、より学生の学習意欲を引き出し、学習に対する満足度を上げることが出来るよう取り組んでゆきたい。

1.概評
前期に開設した130科目でアンケートをとる。回答の肯定率が90%をくだるのが設問01（85.9%）と11（87.1%）であり，問題をあげるとすれば，シラバスの確認と参考図書の配備である。学科平均が昨年度とくらべ，のきなみ低下したのは，回答を5択から4択にへらしたものとおもわれる。肯定的（A，B）な評価がすべての設問で90%を大きくうわまわり，うれしい半面，アンケートの精度がおちたのではないかとおもおう。

2.各質問の評価とその考察
各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	6.4 (9)	16.4 (23)	20.0 (28)	22.1 (31)	17.9 (25)	9.3 (13)	5.7 (8)	2.1 (3)	0.0 (0)	[学生] 設問01があいかわらず，全問中もっともひくい。講義を担当した実感からいうと，シラバスを確認しない学生はもっと多い気がする。教室の内外で，おおむね熱心に学習にとりくんでいるようである。
	0.0 (0)	4.3 (6)	10.7 (15)	22.9 (32)	31.4 (44)	20.0 (28)	8.6 (12)	1.4 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	
2	0.7 (1)	3.6 (5)	12.9 (18)	11.4 (16)	14.3 (20)	16.4 (23)	22.1 (31)	12.1 (17)	5.7 (8)	0.7 (1)	
	1.4 (2)	5.7 (8)	14.3 (20)	18.6 (26)	22.9 (32)	19.3 (27)	13.6 (19)	2.9 (4)	1.4 (2)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	2.1 (3)	6.4 (9)	12.1 (17)	15.7 (22)	25.7 (36)	15.0 (21)	11.4 (16)	10.7 (15)	0.7 (1)	
	0.7 (1)	10.0 (14)	17.1 (24)	18.6 (26)	25.7 (36)	20.7 (29)	3.6 (5)	3.6 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	2.1 (3)	13.6 (19)	20.7 (29)	19.3 (27)	15.7 (22)	15.0 (21)	10.0 (14)	3.6 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	5.0 (7)	10.7 (15)	22.1 (31)	30.0 (42)	22.9 (32)	7.1 (10)	2.1 (3)	0.0 (0)	
5	1.4 (2)	1.4 (2)	2.1 (3)	12.1 (17)	12.9 (18)	23.6 (33)	20.7 (29)	18.6 (26)	5.7 (8)	1.4 (2)	[授業[内容]] 肯定的な評価（A，B）がすべて90%をこえる。
	1.4 (2)	7.9 (11)	22.1 (31)	22.9 (32)	20.7 (29)	16.4 (23)	6.4 (9)	0.7 (1)	1.4 (2)	0.0 (0)	
6	2.1 (3)	4.3 (6)	9.3 (13)	7.1 (10)	14.3 (20)	20.0 (28)	20.0 (28)	16.4 (23)	5.7 (8)	0.7 (1)	
	0.7 (1)	7.1 (10)	17.9 (25)	27.1 (38)	19.3 (27)	17.1 (24)	5.7 (8)	3.6 (5)	1.4 (2)	0.0 (0)	
7	0.7 (1)	1.4 (2)	5.7 (8)	4.3 (6)	12.9 (18)	15.0 (21)	12.1 (17)	22.1 (31)	17.1 (24)	8.6 (12)	
	10.0 (14)	17.1 (24)	25.0 (35)	16.4 (23)	17.1 (24)	10.7 (15)	1.4 (2)	2.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	2.1 (3)	1.4 (2)	7.1 (10)	5.0 (7)	15.0 (21)	20.0 (28)	22.9 (32)	18.6 (26)	7.9 (11)	
	7.9 (11)	20.7 (29)	27.1 (38)	20.7 (29)	14.3 (20)	7.1 (10)	0.0 (0)	2.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.4 (2)	1.4 (2)	5.0 (7)	6.4 (9)	9.3 (13)	13.6 (19)	18.6 (26)	20.0 (28)	16.4 (23)	7.9 (11)	
	8.6 (12)	17.9 (25)	23.6 (33)	20.7 (29)	17.1 (24)	8.6 (12)	1.4 (2)	2.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.9 (4)	3.6 (5)	6.4 (9)	13.6 (19)	25.0 (35)	25.7 (36)	16.4 (23)	6.4 (9)	[環境・設備等] そもそも設備図書を活用しない学生が否定的（C，D）に回答して数値を多少さげているものとおもわれる。
	6.4 (9)	21.4 (30)	30.0 (42)	25.7 (36)	7.9 (11)	6.4 (9)	1.4 (2)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	
11	1.4 (2)	0.7 (1)	5.0 (7)	14.3 (20)	22.1 (31)	24.3 (34)	22.1 (31)	7.9 (11)	1.4 (2)	0.7 (1)	
	2.1 (3)	9.3 (13)	21.4 (30)	29.3 (41)	20.7 (29)	10.0 (14)	5.0 (7)	2.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

2015年度からシラバスに予習・復習時間を書かせたことにともない、学科では、最低週2コマの自習時間を時間ワリにくみこむよう指導した。どれだけの効果があったのかFDアンケートの数値から充分よみこめていないものの、今後ともこれを励行させ、自学自習の習慣が身につくよう指導していく。

4.今後の方針

大学内での自習時間をひきつづき学生たちに浸透させる。

1.概評

新方式下での初めてのアンケート実施となる。新設学科であり、現在1～3年次までの学生が在籍している。肯定的評価の値は、大学全体平均よりも若干低めとなっているが、総じて8～9割であり、学生満足において一定の評価を得ている。授業内容（内容理解、聞き取りやすさ、分かり易さなど）に関して、アクティブラーニングの積極導入を通じて学生参加意識の涵養と知識定着を進めるなど、学科として改善に努めてきた。カリキュラムの構造上、1・2年次は学科の必修科目中心であり、2年次後期からは、選択科目中心の履修パターンに転換する。既に「ビジネス研究」や「プロジェクト演習」が開始され、実務家との対話・協働の機会が豊富に設けられており、これに対応した教員間の情報共有とPBL教授法の開発を継続して推進する。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	1.4 (1)	7.0 (5)	16.9 (12)	28.2 (20)	23.9 (17)	15.5 (11)	7.0 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	【学生】 ①シラバスの閲読、②講義への取組み姿勢、③授業外学習、④講義到達目標の達成の何れにおいても8～9割程度が肯定的評価（A+B評価）であり、概ね良好といえる。一方、A評価の割合に注目すると、①と④について、大学の全体平均よりもやや低く、講義シラバスを熟読して講義に臨む姿勢の確立が不充分であり、特に1年次開講の専門科目において顕著であった。背景としては、1年次、2年次の標準的履修モデルにおいて、多くが必修科目に割かれ、自ら専門科目を選択する機会が少ないことが考えられる。期初の教務ガイダンスにおいて、重点的にシラバスの意義を説明し、学生の意識変革に努めたい。
	0.0 (0)	2.8 (2)	8.5 (6)	23.9 (17)	40.8 (29)	18.3 (13)	5.6 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	5.6 (4)	7.0 (5)	16.9 (12)	29.6 (21)	15.5 (11)	9.9 (7)	12.7 (9)	2.8 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	2.8 (2)	18.3 (13)	11.3 (8)	32.4 (23)	25.4 (18)	8.5 (6)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	2.8 (2)	9.9 (7)	11.3 (8)	22.5 (16)	18.3 (13)	19.7 (14)	12.7 (9)	1.4 (1)	1.4 (1)	
	1.4 (1)	4.2 (3)	21.1 (15)	22.5 (16)	32.4 (23)	12.7 (9)	1.4 (1)	4.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	5.6 (4)	23.9 (17)	26.8 (19)	22.5 (16)	8.5 (6)	9.9 (7)	2.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (1)	1.4 (1)	18.3 (13)	33.8 (24)	33.8 (24)	9.9 (7)	1.4 (1)	0.0 (0)	
5	1.4 (1)	2.8 (2)	4.2 (3)	12.7 (9)	35.2 (25)	19.7 (14)	14.1 (10)	5.6 (4)	2.8 (2)	1.4 (1)	【授業[内容]】 ⑤シラバス記載内容の実質化、⑥講義内容の理解については、学科全体として9割の肯定的評価（A+B評価）を得ており良好といえる。肯定的評価の構成を見ると、概念的・理論的学習が必須の科目においてB評価の割合が高くなる場合もあるが、学科の学びの基盤となる講義群であり、経営・経済系専門科目を担当する教員間、あるいは英語などスキル系科目担当の教員間で、学生の理解度やモチベーションに関する情報を共有し、科目間で学修の相乗効果を高めていく努力を継続したい。
	1.4 (1)	2.8 (2)	7.0 (5)	16.9 (12)	29.6 (21)	31.0 (22)	9.9 (7)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.4 (1)	7.0 (5)	9.9 (7)	16.9 (12)	25.4 (18)	19.7 (14)	9.9 (7)	7.0 (5)	1.4 (1)	1.4 (1)	
	1.4 (1)	0.0 (0)	16.9 (12)	11.3 (8)	29.6 (21)	26.8 (19)	12.7 (9)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	2.8 (2)	4.2 (3)	5.6 (4)	14.1 (10)	18.3 (13)	16.9 (12)	14.1 (10)	8.5 (6)	15.5 (11)	0.0 (0)	【授業[教え方等]】 ⑦教員の説明の明快さ、⑧聞き取り易さ、⑨講義の進め方については、学科全体として9割の肯定的評価（A+B評価）を得ており良好といえる。学科では、全教員が、学生によるディスカッションやプレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング型講義の運営に取り組んでいる。講義内での学生との対話を通じて、知識の定着と、学生自らが常に考え表現する姿勢を涵養する取組みを継続し、3年次ゼミのプロジェクト活動の活性化につなげたい。また、初年次教育における継続的課題として、基礎ゼミを通じた学びのリテラシー修得や、経営・経済系の基礎科目間をブリッジするための仕掛けづくりがあるが、定期的な教員間の情報共有（分科会：学科内FD）や企画討議の機会が定着しつつある。
	0.0 (0)	14.1 (10)	14.1 (10)	15.5 (11)	25.4 (18)	22.5 (16)	8.5 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	1.4 (1)	7.0 (5)	1.4 (1)	15.5 (11)	19.7 (14)	14.1 (10)	11.3 (8)	15.5 (11)	11.3 (8)	2.8 (2)	
	4.2 (3)	11.3 (8)	19.7 (14)	18.3 (13)	25.4 (18)	12.7 (9)	8.5 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.4 (1)	4.2 (3)	7.0 (5)	21.1 (15)	18.3 (13)	19.7 (14)	9.9 (7)	8.5 (6)	9.9 (7)	0.0 (0)	
	1.4 (1)	8.5 (6)	12.7 (9)	19.7 (14)	32.4 (23)	22.5 (16)	2.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	1.4 (1)	0.0 (0)	12.7 (9)	14.1 (10)	26.8 (19)	16.9 (12)	18.3 (13)	8.5 (6)	1.4 (1)	【環境・設備等】 新校舎での学科運営2年目であり、教室等の学習環境に対しては一定の高い評価を維持している。一方、専門科目に資する参考書（経済・経営系を含む社会科学領域）の図書館における整備状況の評価は、大学全体と比較して低い値に留まっており、学生は資料環境が不十分と考えている。しかし、学科設立以来、当領域の専門書・検索データベースが、図書館の整備計画に基づいて充実が図られてきた。順次改善されている状況を紹介するため、学科として図書館資源の積極的活用を促す施策を講じる必要がある。
	0.0 (0)	9.9 (7)	25.4 (18)	23.9 (17)	29.6 (21)	8.5 (6)	2.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	5.6 (4)	7.0 (5)	35.2 (25)	23.9 (17)	12.7 (9)	9.9 (7)	4.2 (3)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	1.4 (1)	9.9 (7)	4.2 (3)	21.1 (15)	23.9 (17)	28.2 (20)	9.9 (7)	1.4 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科として、ケーススタディやプロジェクト学習に対する学生の反応を収集分析する必要がある。今後、学科内で、アクティブラーニングやPBLを導入している科目で評価しフィードバックできるよう、新アンケート活用の仕組みを検討したい。

4.今後の方針

- 1) 経済・経営系科目、スキル系科目(英語やコンピュータ他)、初年次教育科目、プロジェクト科目(ゼミナール)のそれぞれの領域において、担当教員間の対話を随時行い、目標と対応事項を定め、定期的な分科会(学科内FD)を通じて、効果的な教授法の開発と共有を図る活動を継続する。またプログラム管理を進めるため、各領域のコーディネータの役割を強化する。
- 2) 活動内容が多岐にわたるプロジェクト(ゼミナール)において、教員間だけでなく学生間においても、各ゼミ活動の情報共有を進め、教員と学生が一体となったプログラムづくりを推進する(ICTを活用した外部への発信に結びつける)。
- 3) 2年次前期のボストンプログラム(グローバルビジネスプログラム)について、ボストン教員とのコミュニケーションを深め、教授法やプログラムメニューの発展を図る。
- 4) 講義においてはアクティブラーニングを継続して推進し、授業外学習の習慣化を通じてアウトプットの質の向上を図る。プロジェクト活動では、PBLの評価方法、成果の表現方法、ピア・ラーニングに取り組む学科カルチャーの醸成方法を継続的に検討する。
- 5) 学生の自主性を涵養できるよう、課題内容、提出物管理、フィードバックの工夫に努める。卒業に向けた履修計画の立案過程を通じて、学生の自律性を高める。
- 6) FD講演会、FDサロンへの参加を通じた新たな教授法の習得に努める

1.概評

いずれの設問においても、肯定的評価（A+B）の割合が90%前後と高い値を示し、学生の学習態度、教員の授業運営双方に良好であることが確認できた。引き続き、学生の主体的な学びを促し、授業運営の改善に取り組んでいきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	2.3 (1)	9.1 (4)	31.8 (14)	25.0 (11)	18.2 (8)	9.1 (4)	2.3 (1)	2.3 (1)	0.0 (0)	[学生] いずれの項目も肯定的評価の割合が90%前後で、学生の自己評価は高かったといえる。ただ授業外の学習（設問no.3）、到達目標達成（no.4）は平均が80%台で評価のばらつきも大きかった。授業外での学習内容、各科目の到達目標を学生が意識化できるように各教員で働きかけていきたい。
	0.0 (0)	4.5 (2)	6.8 (3)	9.1 (4)	43.2 (19)	31.8 (14)	4.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	15.9 (7)	38.6 (17)	25.0 (11)	13.6 (6)	2.3 (1)	2.3 (1)	2.3 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (2)	9.1 (4)	18.2 (8)	43.2 (19)	25.0 (11)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	6.8 (3)	9.1 (4)	15.9 (7)	20.5 (9)	15.9 (7)	13.6 (6)	9.1 (4)	9.1 (4)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	13.6 (6)	11.4 (5)	18.2 (8)	34.1 (15)	18.2 (8)	4.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	4.5 (2)	27.3 (12)	40.9 (18)	15.9 (7)	6.8 (3)	4.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (2)	2.3 (1)	27.3 (12)	47.7 (21)	13.6 (6)	4.5 (2)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	2.3 (1)	6.8 (3)	27.3 (12)	27.3 (12)	22.7 (10)	6.8 (3)	2.3 (1)	2.3 (1)	2.3 (1)	[授業[内容]] 2設問とも肯定的評価が90%以上で、各教員がシラバスに沿った授業を展開し、学生も授業内容をよく理解したことがうかがえた。
	0.0 (0)	4.5 (2)	4.5 (2)	9.1 (4)	31.8 (14)	36.4 (16)	13.6 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	2.3 (1)	6.8 (3)	18.2 (8)	29.5 (13)	18.2 (8)	20.5 (9)	4.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (2)	9.1 (4)	22.7 (10)	43.2 (19)	13.6 (6)	6.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	4.5 (2)	4.5 (2)	20.5 (9)	11.4 (5)	25.0 (11)	13.6 (6)	13.6 (6)	2.3 (1)	4.5 (2)	[授業[教え方等]] 3設問とも肯定的評価が90%以上で、各授業のすすめ方は適切であったと考えられる。
	4.5 (2)	2.3 (1)	18.2 (8)	18.2 (8)	31.8 (14)	15.9 (7)	9.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	4.5 (2)	4.5 (2)	11.4 (5)	13.6 (6)	15.9 (7)	29.5 (13)	6.8 (3)	9.1 (4)	4.5 (2)	
	4.5 (2)	11.4 (5)	15.9 (7)	27.3 (12)	25.0 (11)	15.9 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	2.3 (1)	2.3 (1)	9.1 (4)	20.5 (9)	18.2 (8)	15.9 (7)	22.7 (10)	4.5 (2)	0.0 (0)	4.5 (2)	
	4.5 (2)	0.0 (0)	15.9 (7)	22.7 (10)	25.0 (11)	22.7 (10)	9.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	2.3 (1)	4.5 (2)	11.4 (5)	6.8 (3)	25.0 (11)	38.6 (17)	6.8 (3)	2.3 (1)	2.3 (1)	[環境・設備等] 2設問とも肯定的評価がほぼ90%であり環境・設備についてもおおむね良好な評価であったといえる。学習環境（no.10）は、評価のばらつきが大きかった。各科目の想定される履修人数に適切な教室配置を一層こころがけたい。
	2.3 (1)	2.3 (1)	27.3 (12)	36.4 (16)	29.5 (13)	2.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	6.8 (3)	11.4 (5)	36.4 (16)	31.8 (14)	9.1 (4)	2.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.3 (1)	
	0.0 (0)	2.3 (1)	2.3 (1)	9.1 (4)	27.3 (12)	43.2 (19)	15.9 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科の専門教育科目を講義系科目群(13科目)と実験実習系科目群(9科目)に分け、各設問ごとの肯定的評価の割合を比較した。両科目群とも肯定的評価の割合はどの設問においても90%前後かそれ以上であり、いずれの科目群においても良好な結果であった。肯定的評価の割合に5%以上の違いがあった設問をみたところ、「授業への積極的取り組み」(no.2)、「授業外学習」(no.3)、「学習環境」(no.10)では、実験実習系科目群の方が高く、「授業理解」(no.6)は、講義系科目群の方が高かった。実験実習系科目では、学生がより能動的に学習に取り組んでいる様子が確認でき、講義系科目群では、必要な知識が身につけていることが推測され、科目の形態に応じた授業目標が達成できたと評価できる。

4.今後の方針

上記の分析より、特に講義系科目群においては、学習環境の改善のために履修人数に応じた適切な教室配置を心がけたい。また実験実習系科目群においては、各科目の達成目標をより具体的に学生に明示することにより、学生の授業理解評価の改善につなげていきたい。

・図書館の蔵書に関しては、各教員が担当授業科目における参考書籍の購入依頼を積極的に行うとともに、学生への指導、広報を行い、学生が図書館をより活用するように促していきたい。

1.概評

本学科では、75科目における回答者数2743名のアンケート集計の結果、学生の授業への取り組み及び、教員による授業の実施状況に関する各質問ともに、95-97%の肯定率が示された。前年度同様にシラバスの確認、授業に対する積極性、課題に対する取り組みに関して高い評価が示され、各教員によるシラバスに応じた授業進行や授業外の学習時間の確保が、学生の授業理解や積極性の向上につながっていると考えられる。参考図書の整備状況については、昨年度同様にその他の項目に比べて低い結果のため、今後は教員および学生への図書リクエストを計画的に実施し、図書の整備を図り、学生の授業内外の学習の充実へとつなげていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	1.3 (1)	5.3 (4)	18.7 (14)	16.0 (12)	21.3 (16)	18.7 (14)	8.0 (6)	8.0 (6)	2.7 (2)	【学生】 問１（シラバスの事前確認）では、講義系科目が演習系科目と比較して低い評価であり、問４（シラバスに示された到達目標の達成）も同様の結果が示された。大人数の学生に向けての周知、そのための授業工夫が求められる。問３（授業外での学習）は、全科目において評価が高く、授業担当者の授業進行に応じた課題提出等によるものと考えられる。授業外学習の充実は、問２（授業への積極的な取り組み）へとつながっており、今後もこのサイクルを図ることで、より高い学習効果へとつなげていきたい。
	4.0 (3)	5.3 (4)	16.0 (12)	22.7 (17)	34.7 (26)	12.0 (9)	4.0 (3)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	4.0 (3)	10.7 (8)	10.7 (8)	13.3 (10)	17.3 (13)	16.0 (12)	14.7 (11)	9.3 (7)	4.0 (3)	
	1.3 (1)	12.0 (9)	16.0 (12)	18.7 (14)	18.7 (14)	18.7 (14)	9.3 (7)	4.0 (3)	1.3 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	2.7 (2)	5.3 (4)	13.3 (10)	14.7 (11)	12.0 (9)	22.7 (17)	10.7 (8)	14.7 (11)	4.0 (3)	
	2.7 (2)	12.0 (9)	20.0 (15)	18.7 (14)	26.7 (20)	14.7 (11)	5.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	2.7 (2)	13.3 (10)	14.7 (11)	18.7 (14)	14.7 (11)	6.7 (5)	21.3 (16)	2.7 (2)	2.7 (2)	2.7 (2)	
	1.3 (1)	2.7 (2)	6.7 (5)	17.3 (13)	17.3 (13)	21.3 (16)	20.0 (15)	10.7 (8)	1.3 (1)	1.3 (1)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	14.7 (11)	16.0 (12)	14.7 (11)	26.7 (20)	14.7 (11)	9.3 (7)	4.0 (3)	【授業[内容]】 問1（シラバスの事前確認）の評価は、問５（授業はシラバスに記載された内容で行われたか）に連動する質問項目であるが、講義系科目において、問1に低い評価、問5で高い評価が示された科目がある。授業の初回だけではなく、授業進行に応じて随時シラバスの内容を照合させるなど授業担当者の努力がうかがえる。問6（授業内容の理解）については、社会調査等の評価が低く、授業内容の難易度が影響したと考えられる。対応としては授業外学習時間を確保し、授業内容の理解につながるよう授業工夫について、各先生方に教務部委員から依頼していく。
	2.7 (2)	9.3 (7)	13.3 (10)	32.0 (24)	17.3 (13)	16.0 (12)	9.3 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.3 (1)	4.0 (3)	6.7 (5)	12.0 (9)	9.3 (7)	26.7 (20)	14.7 (11)	10.7 (8)	12.0 (9)	2.7 (2)	
	1.3 (1)	12.0 (9)	18.7 (14)	20.0 (15)	17.3 (13)	16.0 (12)	12.0 (9)	2.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.3 (1)	0.0 (0)	1.3 (1)	8.0 (6)	12.0 (9)	17.3 (13)	17.3 (13)	14.7 (11)	12.0 (9)	16.0 (12)	
	16.0 (12)	16.0 (12)	13.3 (10)	20.0 (15)	18.7 (14)	13.3 (10)	2.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.3 (1)	1.3 (1)	4.0 (3)	14.7 (11)	10.7 (8)	21.3 (16)	16.0 (12)	16.0 (12)	14.7 (11)	【授業[教え方等]】 問７（説明の明快性）、問８（よく聞き取れたか）、問９（授業の進め方）については、全科目において高い肯定率が示された。以前のアンケート項目では、板書やパワーポイントの使用など、演習系の授業に対応しない質問項目が含まれ低い評価が示されたが、今回より包括的な質問項目へと変更になったことで、演習系科目の正確な評価が示されたと考える。
	13.3 (10)	16.0 (12)	22.7 (17)	20.0 (15)	13.3 (10)	14.7 (11)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.3 (1)	0.0 (0)	2.7 (2)	8.0 (6)	16.0 (12)	17.3 (13)	21.3 (16)	9.3 (7)	10.7 (8)	13.3 (10)	
	10.7 (8)	13.3 (10)	13.3 (10)	26.7 (20)	18.7 (14)	12.0 (9)	5.3 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	2.7 (2)	4.0 (3)	13.3 (10)	26.7 (20)	25.3 (19)	14.7 (11)	12.0 (9)	【環境・設備等】 人数に応じた教室の確保により、問１０（学習環境）においては高い肯定率となっている。これまで学習環境の低評価の科目の時間割を変更し、改善したことが成果に結びついている。問１１（参考図書の充実）については、学科の資料室をはじめ、図書館の充実に向けて、学科内会議等で図書、資料に関するリクエストを募る等、計画的に実施していく。
	14.7 (11)	13.3 (10)	28.0 (21)	29.3 (22)	12.0 (9)	2.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.3 (1)	1.3 (1)	8.0 (6)	17.3 (13)	14.7 (11)	26.7 (20)	8.0 (6)	13.3 (10)	5.3 (4)	4.0 (3)	
	5.3 (4)	8.0 (6)	13.3 (10)	20.0 (15)	22.7 (17)	21.3 (16)	6.7 (5)	2.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

本学科は社会福祉士、精神保健福祉士、保育士の3資格を養成していく上で、資格専門科目内に講義系、演習系の授業科目を設置している。それぞれの評価について、学科独自の取組みとして比較、検討した。特に評価の差が生じたのが、学生の取組みに関する問1(シラバスの授業内容の確認)、問2(授業への積極性)、問3(授業外の学習)についてで、演習系科目(35科目)の各質問の肯定率はほぼ100%であるが、講義系科目(40科目)については、問1は60%~70%台、問2は70%~80%台、問3は50%~60%台と、評価に差が生じている。講義系科目に関してはより学生が積極的に授業に取組めるよう、シラバスによる授業内容の確認、授業外の時間の確保を図り、授業への積極性につながるよう専任教員、非常勤教員ともに工夫が求められる。今後非常勤懇談科会等で講義系科目の担当教員間で意見交換し、検討していきたい。

4.今後の方針

1. 教務部委員によるガイダンスの一層の工夫

来年度から新たなカリキュラム編成となるため、新旧科目の移行を含め、学生が科目構成や体系について十分理解し、科目履修できるよう教務部委員によるガイダンスの一層の工夫と強化を図る。

2. 常勤、非常勤教員間の連携強化

新旧カリキュラムの移行に伴い、学生に不利益が生じないよう、学科教員間での情報の共有化を図り、新たな教育理念に基づき全教員が取組めるよう、学科内公開授業の開催や非常勤懇談科会の場を通して教員間の連携を強化していく。

1.概評

ソーシャル・スタディーズ、メディア・スタディーズ、グローバル・スタディーズの3つのスタディーズを設けたカリキュラムがスタートして3年目になる。授業公開をスタディーズごとに前期と後期に行い、教員間で授業後にディスカッションをし、お互いの授業の関係性や方向性を確認し合っている。授業の質を上げる努力の成果が、少しずつ現れてきている。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.7 (1)	2.2 (3)	9.0 (12)	14.2 (19)	17.9 (24)	24.6 (33)	17.2 (23)	7.5 (10)	4.5 (6)	2.2 (3)	[学生] シラバスによる事前確認（no.1）、授業への積極的取り組み（no.2）、授業外での学習（no.3）については、半数程度の学生が肯定的評価をしている科目数が多い結果となっている。 英語に関しては、授業外での学習をさらに進めるため、e-learningの学習の徹底に向けて非常勤教員を含め話し合いを重ねている。その他の科目についても、課題やレポートなどで工夫をするよう、学科で検討していきたい。
	1.5 (2)	7.5 (10)	12.7 (17)	20.1 (27)	35.1 (47)	19.4 (26)	3.0 (4)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	3.7 (5)	7.5 (10)	17.2 (23)	15.7 (21)	18.7 (25)	15.7 (21)	8.2 (11)	8.2 (11)	5.2 (7)	
	5.2 (7)	7.5 (10)	11.9 (16)	15.7 (21)	27.6 (37)	18.7 (25)	11.9 (16)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	3.0 (4)	6.7 (9)	9.7 (13)	11.2 (15)	18.7 (25)	17.9 (24)	12.7 (17)	16.4 (22)	3.7 (5)	
	4.5 (6)	17.9 (24)	15.7 (21)	21.6 (29)	24.6 (33)	13.4 (18)	2.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	3.7 (5)	11.9 (16)	20.9 (28)	19.4 (26)	14.2 (19)	14.2 (19)	10.4 (14)	3.0 (4)	1.5 (2)	0.7 (1)	
	0.7 (1)	2.2 (3)	3.0 (4)	11.9 (16)	13.4 (18)	34.3 (46)	25.4 (34)	7.5 (10)	1.5 (2)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	3.7 (5)	3.0 (4)	11.9 (16)	10.4 (14)	24.6 (33)	15.7 (21)	15.7 (21)	11.9 (16)	3.0 (4)	[授業[内容]] 「授業はシラバスに記載された内容で行われたか」（no.5）は、半数程度の学生が肯定的な評価をした科目数の割合が高いことから、シラバスが充実し、内容に沿った授業が展開されていることが伺える結果である。「授業内容の理解」（no.6）については、no.2の積極的に授業に取り組んだかどうかということと相関関係にあるとも考えられる。授業外での学習時間を増やすことは、授業内容の理解を高めることに繋がるはずである。学生には、授業外での積極的な学習を促していきたい。
	3.0 (4)	10.4 (14)	19.4 (26)	20.1 (27)	24.6 (33)	13.4 (18)	8.2 (11)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.5 (2)	5.2 (7)	6.0 (8)	13.4 (18)	16.4 (22)	18.7 (25)	14.2 (19)	12.7 (17)	10.4 (14)	1.5 (2)	[授業[教え方等]] 教えた等については評価に多少ばらつきが見られる。授業のタイプによっては、PowerPointや映像等の教材の使用の有無や、配付資料の量の差があると思われ、その差が評価に違いを生んでいるとも考えられる。教員の説明の明快さについては、テーマによっては、学生が「明快」と受け止めることができない場合も考えられる。教員が平明な解説をする努力は必要であるが、難しい側面もある。
	2.2 (3)	10.4 (14)	14.2 (19)	20.1 (27)	23.9 (32)	23.9 (32)	3.7 (5)	1.5 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.5 (2)	1.5 (2)	5.2 (7)	8.2 (11)	9.0 (12)	15.7 (21)	13.4 (18)	14.2 (19)	17.9 (24)	13.4 (18)	
	13.4 (18)	19.4 (26)	20.9 (28)	18.7 (25)	16.4 (22)	9.0 (12)	2.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	3.0 (4)	4.5 (6)	4.5 (6)	7.5 (10)	11.9 (16)	14.2 (19)	17.9 (24)	23.1 (31)	13.4 (18)	
	12.7 (17)	23.9 (32)	28.4 (38)	12.7 (17)	14.9 (20)	7.5 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.5 (2)	2.2 (3)	6.7 (9)	9.7 (13)	11.2 (15)	11.2 (15)	18.7 (25)	12.7 (17)	18.7 (25)	7.5 (10)	
	8.2 (11)	17.9 (24)	20.9 (28)	22.4 (30)	18.7 (25)	9.7 (13)	2.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.2 (3)	3.7 (5)	3.7 (5)	10.4 (14)	23.1 (31)	26.9 (36)	19.4 (26)	10.4 (14)	[環境・設備等] 学習環境については、評価に多少ばらつきが見られる。授業内容に即した適切な教室を使用できているとは限らないためであると考ええる。また、参考書の充実度に対する評価は以前に比べ上がっている。これは、図書館と連携して参考書の充実に向けた結果である。さらなる充実を図っていききたい。
	11.2 (15)	23.1 (31)	34.3 (46)	19.4 (26)	7.5 (10)	4.5 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.7 (1)	6.0 (8)	17.9 (24)	18.7 (25)	16.4 (22)	18.7 (25)	14.9 (20)	4.5 (6)	2.2 (3)	
	3.0 (4)	6.0 (8)	18.7 (25)	20.1 (27)	21.6 (29)	23.1 (31)	6.7 (9)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

現代教養学科では、参加型の授業を強化するための授業方法を教員間で検討しているが、それに対応した教室が不足している。この点が学生の学習環境の評価のばらつきに表れていると考える。また、学生自身が授業にどれだけ興味を持って積極的に取り組めるか、ということが一つ一つの授業の評価にも繋がっていくと思われる。受け身ではなく、自主的な授業参加を促すような授業運営について、学科でも話し合っていきたい。

4.今後の方針

現代教養学科では、授業の改善・充実のための一つの方法として、スタディーズごとに授業公開を行い、授業後にディスカッションをすることで、教員間での授業の関係性や方向性の確認に努めている。今後もできるだけ授業公開に参加し合うことで連携を図り、情報交換に努め、よりよい授業の方法を模索して行きたい。また、図書館の協力を仰ぎ、これまで少なかった社会学系の図書の充実をお願いしている。今後も引き続き進めて行きたい。

1.概評

すべての質問項目で、肯定的評価が平均90%を超えており、方法が変わっても、前年度までと同様、高い水準を維持している。各教員に対する評価についても、目立って否定的なものはなく、それぞれの教員の授業努力を学生が肯定的にとらえている。「無効・無回答」の数が多い教科、自由記述が全くない教科が若干あり、配布の際に出席数を確認して用紙を配る、教示の際に漏れ落ちなく回答することを促す、回答時間を適切に確保する等の配慮が必要である。

自由記述が閲覧できるようにしたのは、画期的で、高止まりの数値以上に、学生の生の声を反映している。特に、何人もの学生から同様の指摘を受けている場合は真摯に受け止め、改善努力が求められる。

各教員の改善報告の一部に、単に授業の内容を列記したものや、講義を実施しての学生に対する感想を記入したものがある。改善の方向性が全く明示されていないのは問題であり、改善報告の改善が求められる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	1.1 (1)	0.0 (0)	5.5 (5)	11.0 (10)	24.2 (22)	27.5 (25)	17.6 (16)	8.8 (8)	3.3 (3)	1.1 (1)	[学生] 相対的に、毎回やや低い評価となる「シラバスの確認」に関しては、今年度も若干名の否定的評価があったが、10%程度であり、シラバスに沿って授業実施や、学生への周知に関して、教員が意識して行うようになってきている。授業外での取り組みについては、教科関のばらつきがあり、一部の教科では、学生の授業外の課題実施や、積極的な授業への取り組みについて、一層の改善努力が求められる。学生の目標たっせに関する意識が多項目に比べてやや低く、改善の余地が残されている。
	1.1 (1)	5.5 (5)	14.3 (13)	26.4 (24)	29.7 (27)	19.8 (18)	3.3 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.1 (1)	3.3 (3)	6.6 (6)	13.2 (12)	25.3 (23)	18.7 (17)	18.7 (17)	11.0 (10)	2.2 (2)	
	1.1 (1)	13.2 (12)	20.9 (19)	22.0 (20)	24.2 (22)	15.4 (14)	2.2 (2)	0.0 (0)	1.1 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.1 (1)	4.4 (4)	4.4 (4)	14.3 (13)	16.5 (15)	24.2 (22)	25.3 (23)	5.5 (5)	4.4 (4)	
	5.5 (5)	7.7 (7)	25.3 (23)	29.7 (27)	14.3 (13)	15.4 (14)	1.1 (1)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.1 (1)	5.5 (5)	11.0 (10)	9.9 (9)	20.9 (19)	25.3 (23)	14.3 (13)	8.8 (8)	2.2 (2)	1.1 (1)	
	1.1 (1)	3.3 (3)	8.8 (8)	13.2 (12)	35.2 (32)	18.7 (17)	13.2 (12)	4.4 (4)	2.2 (2)	0.0 (0)	
5	1.1 (1)	1.1 (1)	1.1 (1)	7.7 (7)	15.4 (14)	22.0 (20)	18.7 (17)	17.6 (16)	13.2 (12)	2.2 (2)	[授業[内容]] 授業内容はほとんどの科目で、高い評価である。ほとんどの科目でシラバスに沿った授業実施がなされている。
	0.0 (0)	16.5 (15)	20.9 (19)	18.7 (17)	23.1 (21)	14.3 (13)	6.6 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.1 (1)	1.1 (1)	5.5 (5)	6.6 (6)	12.1 (11)	24.2 (22)	15.4 (14)	17.6 (16)	13.2 (12)	3.3 (3)	
	1.1 (1)	12.1 (11)	29.7 (27)	16.5 (15)	19.8 (18)	16.5 (15)	4.4 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	2.2 (2)	2.2 (2)	7.7 (7)	7.7 (7)	12.1 (11)	23.1 (21)	15.4 (14)	16.5 (15)	13.2 (12)	[授業[教え方等]] 教え方も、ほとんどの評価科目で、高い評価である。しかし、自由記述を読むと、「進み方が早すぎてついていけない」、「声が小さく聞き取りづらい」などの記載も若干あり、授業の方法について工夫が求められる。
	12.1 (11)	14.3 (13)	27.5 (25)	19.8 (18)	19.8 (18)	6.6 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.1 (1)	4.4 (4)	2.2 (2)	6.6 (6)	17.6 (16)	18.7 (17)	18.7 (17)	18.7 (17)	12.1 (11)	
	13.2 (12)	17.6 (16)	25.3 (23)	23.1 (21)	12.1 (11)	6.6 (6)	2.2 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.1 (1)	1.1 (1)	4.4 (4)	6.6 (6)	8.8 (8)	16.5 (15)	18.7 (17)	19.8 (18)	15.4 (14)	7.7 (7)	
	6.6 (6)	22.0 (20)	20.9 (19)	24.2 (22)	15.4 (14)	8.8 (8)	1.1 (1)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	1.1 (1)	1.1 (1)	6.6 (6)	3.3 (3)	14.3 (13)	31.9 (29)	15.4 (14)	16.5 (15)	9.9 (9)	[環境・設備等] 環境・設備については、教室に対して人数が多い授業では、肯定的評価が低くなる傾向がある。今後の定員増を見据えて、良好な授業環境を保つためには、クラス数を増やす等の対応が必要になる。参考図書については、教科ごとにばらつきがあり、工夫の余地が残されている。関連図書を教員が積極的に図書館に入れてもらう努力が必要である。
	11.0 (10)	14.3 (13)	35.2 (32)	24.2 (22)	12.1 (11)	2.2 (2)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	2.2 (2)	0.0 (0)	3.3 (3)	12.1 (11)	15.4 (14)	30.8 (28)	20.9 (19)	9.9 (9)	2.2 (2)	3.3 (3)	
	2.2 (2)	5.5 (5)	28.6 (26)	23.1 (21)	17.6 (16)	15.4 (14)	7.7 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教員養成の学科であるので、教師の授業そのものがロールモデルになるという事情もあり、ほとんどの科目で、それぞれの教員が自覚をもって学生にとってわかりやすく、しっかりと目標達成を意識した授業実施がなされている。

4.今後の方針

アンケートについては、ほとんどの科目のほとんどの項目で、90%以上の学生が肯定的評価をつけている。この評価を維持していくと同時に、学生の主体的な授業への取り組みをより一層高める努力をしていく。

1.概評

本年度より導入されたフォーマットの為、旧来のデータとの比較は一概に言えないものの、概ね例年通りの傾向にあると考えられる。つまり授業に関する紹介や導入の部分においては比較的良い結果となっているものの、授業運営や達成度、習熟状況に関しては科目間にばらつきがあり、引き続き改良の必要性があるということである。
しかしながら類似科目において評価の高い科目もあることから、教員同士の情報交換等によりある程度の向上の可能性は生じてきていると考える。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	2.1 (3)	7.1 (10)	26.2 (37)	29.1 (41)	16.3 (23)	7.1 (10)	7.8 (11)	4.3 (6)	[学生] A+Bの評価率(%)は学科評価／全体評価において設問 1 (93.8/89.8)、設問2(95.2/95.2)、設問3(94.4/93.0)、設問4(92.0/90.5)といずれも同率またはそれ以上となっている。 学期初めのガイダンスや、授業内・外での学習指導が、比較的うまく機能していることが理由と考えられ、この状況は継続していきたい。 なお設問4に関しては、科目によっては評価を落としているものもあり、適切な到達目標の設定や周知を、より一層図る必要があると考える。
	5.0 (7)	6.4 (9)	14.9 (21)	20.6 (29)	35.5 (50)	14.2 (20)	2.8 (4)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.7 (1)	5.0 (7)	12.1 (17)	22.0 (31)	20.6 (29)	15.6 (22)	11.3 (16)	9.9 (14)	2.8 (4)	
	5.7 (8)	7.8 (11)	14.2 (20)	18.4 (26)	24.1 (34)	24.1 (34)	5.0 (7)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (2)	6.4 (9)	13.5 (19)	24.1 (34)	27.0 (38)	12.8 (18)	12.8 (18)	2.1 (3)	
	5.7 (8)	12.1 (17)	16.3 (23)	34.8 (49)	19.9 (28)	9.2 (13)	1.4 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	5.7 (8)	14.9 (21)	23.4 (33)	20.6 (29)	16.3 (23)	11.3 (16)	3.5 (5)	3.5 (5)	0.7 (1)	
	1.4 (2)	2.8 (4)	9.2 (13)	11.3 (16)	14.9 (21)	42.6 (60)	14.9 (21)	2.8 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	1.4 (2)	2.8 (4)	3.5 (5)	15.6 (22)	25.5 (36)	24.8 (35)	10.6 (15)	11.3 (16)	4.3 (6)	[授業[内容]] A+Bの評価率(%)は学科評価／全体評価において設問5(96.9/95.8)、設問6(92.9/92.9)といずれも同率またはそれ以上となっている。但し設問6に関しては科目によるばらつきもあることから、内容の明確化、伝達方法における更なる改善が望まれる。
	3.5 (5)	9.9 (14)	19.1 (27)	24.1 (34)	24.8 (35)	14.9 (21)	2.8 (4)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	4.3 (6)	5.7 (8)	16.3 (23)	17.0 (24)	19.1 (27)	14.2 (20)	11.3 (16)	8.5 (12)	3.5 (5)	
	3.5 (5)	9.9 (14)	14.9 (21)	20.6 (29)	23.4 (33)	22.0 (31)	3.5 (5)	1.4 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	
7	1.4 (2)	1.4 (2)	5.0 (7)	12.8 (18)	12.1 (17)	18.4 (26)	17.0 (24)	12.8 (18)	9.9 (14)	9.2 (13)	[授業[教え方等]] A+Bの評価率(%)は学科評価／全体評価において設問 7(93.1/93.4)、設問8(94.5/94.3)、設問9(93.0/92.8)となっている。 科目による変動が大きく、特に講義科目において評価の低下があるように感じられるが、この傾向は例年通りである。 科目によっては開講クラス数を増やし、履修人数を40～50名程度に絞ってきたものもあるが、現状それでもなお、大幅な評価の向上にはつながっておらず、教員の指導方法の更なる改善、学生のやる気の向上に工夫が望まれる。
	7.8 (11)	14.9 (21)	17.0 (24)	21.3 (30)	20.6 (29)	17.0 (24)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.7 (1)	2.1 (3)	2.1 (3)	9.2 (13)	9.2 (13)	16.3 (23)	23.4 (33)	11.3 (16)	14.2 (20)	11.3 (16)	
	9.9 (14)	14.9 (21)	19.9 (28)	26.2 (37)	17.0 (24)	9.2 (13)	2.1 (3)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.4 (2)	1.4 (2)	3.5 (5)	14.2 (20)	11.3 (16)	17.0 (24)	19.9 (28)	12.1 (17)	9.9 (14)	9.2 (13)	
	9.9 (14)	11.3 (16)	18.4 (26)	23.4 (33)	19.1 (27)	14.2 (20)	2.8 (4)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.1 (3)	6.4 (9)	11.3 (16)	18.4 (26)	25.5 (36)	14.9 (21)	12.1 (17)	9.2 (13)	[環境・設備等] A+Bの評価率(%)は学科評価／全体評価において設問 10(93.9/95.1)、設問11(86.9/88.6)となっている。 学習環境（特に部屋の広さや空調）に関して、改善を望む声が例年通り確認された。空調機器の更新など徐々にではあるが改善されてきているとは考えるが、更なる環境向上が望まれる。 図書館の整備とその利用に関しては、今後とも学生に対するアドバイスを行っていきたい。
	12.8 (18)	10.6 (15)	23.4 (33)	27.0 (38)	20.6 (29)	5.7 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.7 (1)	2.1 (3)	14.9 (21)	20.6 (29)	17.7 (25)	25.5 (36)	8.5 (12)	4.3 (6)	3.5 (5)	2.1 (3)	
	2.8 (4)	5.0 (7)	12.1 (17)	19.1 (27)	34.8 (49)	22.7 (32)	3.5 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

本学科では、入試において理数系科目を選択せずにも入学できるシステムをとっている。このため入学生の中には高校において理数系科目をほとんど履修せずに入學してきた学生も少なくない。しかし一方で学科カリキュラムにおいては最低限の理数系科目の知識を必要とするものが少なからず存在しており、これら関連科目に関する評価が、他の演習科目などに比べ傾向として低評価となっている。

4.今後の方針

学科の根幹である創作意欲に関しては、多くの学生が有しており、演習科目に関しても積極的に取り組み、到達目標に対する達成度も比較的高い状況となっている。一方3でも述べた通り、理数系科目に関しては、いくつかの科目で評価の低い科目があり、現状複数のフォローアップ用科目を用意し対応しているが、こうした科目も含め低評価の傾向にあり、改善には至っていない。しかしこうしたクラス間でも少なからず評価に違いは生じており、教員間で情報交換するなどし、少しでも評価の向上につながる努力を継続していきたい。

1.概評

前学期と比べて各項目の平均値はほぼ横ばいで、全体的に高い得点を維持している。学生の高い学習意欲や積極的な取り組んでいる姿勢が窺える。法規や基準量など授業内容は常に新しくなるため、学生が必要とする図書や雑誌なども新規あるいは順次更新されたものを設置し、身近に手に取って、見られる環境が必要と考える。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	3.1 (2)	13.8 (9)	26.2 (17)	35.4 (23)	16.9 (11)	3.1 (2)	0.0 (0)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	[学生] 管理栄養学科で開設されている科目の多くは資格取得の必修科目であり、且つ国家試験受験に必須の科目である。そのため、これら項目の平均値はいずれも前学期同様高い数値を示した。授業へ取り組む姿勢は、学生により評価も異なると思われるが、レポート作成も含め、授業外でも積極的に取り組んでいると思われる。中には、提出期限に遅れるようなケースも見受けられるので、評価を低くしている理由の一つと考えられる。出席状況は良く、学内での授業だけでなく、校外での臨地実習等の学習にも、十分取り組んでいると評価できる。授業の理解度は、基礎科目から応用科目までを含んだ評価なので、少しばらつきがみられるが、基礎科目に関しては、より理解しやすい教授方法の検討も必要と考える。学生にとってシラバスは、事前に授業内容を知り、授業に臨むために重要な情報源である。確認している学生もいるが、必ず事前に、シラバスを確認するよう指導してゆく。
	0.0 (0)	0.0 (0)	1.5 (1)	6.2 (4)	33.8 (22)	43.1 (28)	10.8 (7)	3.1 (2)	1.5 (1)	0.0 (0)	
2	3.1 (2)	6.2 (4)	15.4 (10)	21.5 (14)	18.5 (12)	15.4 (10)	12.3 (8)	6.2 (4)	0.0 (0)	1.5 (1)	
	1.5 (1)	0.0 (0)	7.7 (5)	12.3 (8)	15.4 (10)	29.2 (19)	21.5 (14)	9.2 (6)	3.1 (2)	0.0 (0)	
3	9.2 (6)	10.8 (7)	13.8 (9)	21.5 (14)	9.2 (6)	12.3 (8)	9.2 (6)	6.2 (4)	6.2 (4)	1.5 (1)	
	0.0 (0)	7.7 (5)	9.2 (6)	15.4 (10)	12.3 (8)	27.7 (18)	16.9 (11)	9.2 (6)	1.5 (1)	0.0 (0)	
4	20.0 (13)	23.1 (15)	30.8 (20)	12.3 (8)	7.7 (5)	6.2 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.5 (1)	10.8 (7)	20.0 (13)	44.6 (29)	15.4 (10)	6.2 (4)	1.5 (1)	
5	1.5 (1)	9.2 (6)	20.0 (13)	26.2 (17)	26.2 (17)	12.3 (8)	3.1 (2)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	[授業[内容]] これらの数値は前学期のそれと同じ高い数値である。授業内容の理解度は高まっていると考えられる。 今後も、シラバスの事前確認、授業の事前準備を、学生に指導する。特に実験・実習科目は授業の予習(事前準備)は必須であり、それによって実験実習の授業内容を理解度も異なると考えられる。学生にその必要性を更に認識できるように指導する。
	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.6 (3)	18.5 (12)	36.9 (24)	23.1 (15)	13.8 (9)	3.1 (2)	0.0 (0)	
6	15.4 (10)	3.1 (2)	20.0 (13)	23.1 (15)	20.0 (13)	10.8 (7)	3.1 (2)	3.1 (2)	1.5 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (2)	6.2 (4)	20.0 (13)	30.8 (20)	27.7 (18)	10.8 (7)	1.5 (1)	0.0 (0)	
7	9.2 (6)	3.1 (2)	7.7 (5)	21.5 (14)	20.0 (13)	21.5 (14)	7.7 (5)	4.6 (3)	3.1 (2)	1.5 (1)	[授業[教え方等]] これらの平均値は前学期とほぼ同じ高い数値を維持している。教授内容がわかりやすく、適切な方法で講義されていることを示す結果と思われる。一方、教え方や理解の評価は、受講学生数と教室の広さ、静粛性、視聴覚設備などの状況に影響を受ける。現状は、学習しやすい環境が、概ね整っていることを示していると思われる。しかしその一方で教育媒体に満足していない学生のあることも、少数ではあるが、示されている。施設面での充実を図ると共に、講義方法について、一方法にとどまることなく、内容に即した方法の検討を加え、理解度を高めるための一層の工夫も必要と考える。
	0.0 (0)	6.2 (4)	4.6 (3)	10.8 (7)	35.4 (23)	27.7 (18)	15.4 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	6.2 (4)	4.6 (3)	6.2 (4)	15.4 (10)	18.5 (12)	27.7 (18)	9.2 (6)	9.2 (6)	1.5 (1)	1.5 (1)	
	0.0 (0)	3.1 (2)	12.3 (8)	9.2 (6)	36.9 (24)	29.2 (19)	9.2 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	10.8 (7)	3.1 (2)	9.2 (6)	12.3 (8)	43.1 (28)	6.2 (4)	6.2 (4)	6.2 (4)	0.0 (0)	3.1 (2)	
	1.5 (1)	3.1 (2)	3.1 (2)	10.8 (7)	27.7 (18)	38.5 (25)	13.8 (9)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	1.5 (1)	1.5 (1)	18.5 (12)	35.4 (23)	24.6 (16)	12.3 (8)	3.1 (2)	1.5 (1)	1.5 (1)	[環境・設備等] これらの値は前学期に比べると少し低下している。教室の広さは十分でないと感じている学生も少なくない。本年度前期は、隣接している住宅の撤去工事等で静寂な環境が保たれないなどの理由も重なっていると考え。環境・設備の一層の充実を検討し、教員からも要望を積極的に出すよう、働きかけてゆきたい。また、専門領域図書の充実を図る必要性を感じている。
	1.5 (1)	1.5 (1)	6.2 (4)	16.9 (11)	33.8 (22)	35.4 (23)	4.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.5 (1)	7.7 (5)	30.8 (20)	36.9 (24)	15.4 (10)	4.6 (3)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.5 (1)	
	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.1 (2)	24.6 (16)	47.7 (31)	18.5 (12)	4.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

管理栄養士は、主に病院、社会福祉施設等を中心とする医療の現場で活躍するため、食品や料理の知識や技術をはじめ、メンタルとフィジカルの極めて幅の広い知識とさまざまな事象や症例に対応する技能を修得している事を求められる。基礎となる化学や生物学の領域は、より充実した基礎教育として、その学力を高める取り組みが欠かせない。現在行っている入学前教育(化学、生物)を今後も継続し、基礎学力向上を目指した取り組みを行ってゆく。また、管理栄養士の主な活躍の場である病院では、チーム医療が行われており、専門用語として医学英語のスキルが必要とされることが多い。又グローバルな各保健に関する機関で活躍できる管理栄養士となるためにも高い英語力が必要とされる。本年度から、専門科目としての「科学英語」を2年次に開講し、専門英語の教育を開始した。学生の関心は高く、少し内容の難易度が高かったようである。初年度であるので、経過を観察し、検討していく。

4.今後の方針

管理栄養学科は、管理栄養士養成を主たる教育目標の一つとして捉えており、資格取得に関わるカリキュラムの一層の充実が求められている。学科学生のほとんどは管理栄養士国家試験合格を目指しており、学習目的は明確で勉学意欲は極めて高い。これら学生の要求を満足すべく、基礎から応用へ段階を踏んだ科目構成としたカリキュラムの変更を行い、より効果的な教育を推し進めてゆく。

1.概評

現在、3～4年生は学科開設当時からのカリキュラム、1～2年生は専門の基礎科目がすべて必修化された新カリキュラムの授業になっている。今後数年間のFDアンケートの結果は、その試みの成果を評価する重要な資料となるものと考えられる。質問項目及び回答方法の変更によって、前年度との比較は難しいが、全体的には例年と同様の、資格関連の専門科目が多いため講義科目ではその内容がやや難解でやや評価が低い科目があり、一方で演習・実習科目は内容が充実しており総じて評価が高い、というものである。この現状に甘んじることなく、学生の学習意欲向上を目指した取り組みをしていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ <100	考察
1	0.0 (0)	4.5 (3)	7.6 (5)	25.8 (17)	24.2 (16)	24.2 (16)	9.1 (6)	3.0 (2)	1.5 (1)	0.0 (0)	[学生] 他の項目と比較すると、シラバス確認についての評価が高いとは言えないが、A+B評価では学内平均と同値である。多くの授業が資格取得のための必修であり選択の余地が少ないためという理由はあるが、学科として各授業の1回目でシラバス確認を徹底するなどの工夫が必要かもしれない。学生の授業への取り組みは積極的で、授業外での学習も十分に行っていると考えられる。「到達目標」を達成できたかという新規の質問項目はA+B評価では学内平均より高く、資格取得という明確な目標のある学習に一定の達成感があるものと考えられる。
	0.0 (0)	0.0 (0)	9.1 (6)	15.2 (10)	40.9 (27)	22.7 (15)	12.1 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	6.1 (4)	10.6 (7)	10.6 (7)	19.7 (13)	22.7 (15)	12.1 (8)	12.1 (8)	3.0 (2)	3.0 (2)	
	1.5 (1)	6.1 (4)	7.6 (5)	19.7 (13)	24.2 (16)	28.8 (19)	9.1 (6)	3.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	7.6 (5)	15.2 (10)	9.1 (6)	25.8 (17)	19.7 (13)	12.1 (8)	9.1 (6)	1.5 (1)	
	1.5 (1)	7.6 (5)	16.7 (11)	27.3 (18)	27.3 (18)	12.1 (8)	7.6 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	3.0 (2)	13.6 (9)	19.7 (13)	19.7 (13)	24.2 (16)	12.1 (8)	4.5 (3)	3.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (2)	6.1 (4)	19.7 (13)	33.3 (22)	25.8 (17)	9.1 (6)	3.0 (2)	0.0 (0)	
5	1.5 (1)	1.5 (1)	10.6 (7)	7.6 (5)	33.3 (22)	18.2 (12)	15.2 (10)	6.1 (4)	6.1 (4)	0.0 (0)	[授業[内容]] シラバスとの一致は高評価であったが、これは資格取得のための科目内容がある程度決められているためとも言える。内容の理解について、理系の知識が必要でどうしても難解な部分があるため講義科目の評価がやや低く、一方で実践的内容の実習・演習科目は評価がやや高い傾向がみられた。これらも例年通りの結果と言える。
	0.0 (0)	4.5 (3)	7.6 (5)	13.6 (9)	25.8 (17)	30.3 (20)	12.1 (8)	6.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	4.5 (3)	6.1 (4)	12.1 (8)	19.7 (13)	15.2 (10)	21.2 (14)	9.1 (6)	4.5 (3)	6.1 (4)	1.5 (1)	
	1.5 (1)	4.5 (3)	7.6 (5)	12.1 (8)	30.3 (20)	25.8 (17)	15.2 (10)	3.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	4.5 (3)	6.1 (4)	9.1 (6)	21.2 (14)	7.6 (5)	13.6 (9)	15.2 (10)	9.1 (6)	6.1 (4)	7.6 (5)	
	7.6 (5)	6.1 (4)	12.1 (8)	19.7 (13)	24.2 (16)	18.2 (12)	12.1 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	[授業[教え方等]] 科目により評価が分かれる傾向があった。全体的に、基礎的な講義科目にやや評価の低いものがあり、一方で応用的な実習・演習科目の評価が高くなる傾向があった。これも授業内容に記述したものと共通の理由によるものと考えられる。学科として、とくに基礎的な講義科目への意欲的な取り組みを促す工夫が必要かもしれない。
8	1.5 (1)	7.6 (5)	9.1 (6)	9.1 (6)	19.7 (13)	10.6 (7)	13.6 (9)	12.1 (8)	9.1 (6)	7.6 (5)	
	6.1 (4)	7.6 (5)	16.7 (11)	16.7 (11)	24.2 (16)	16.7 (11)	10.6 (7)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	7.6 (5)	4.5 (3)	4.5 (3)	24.2 (16)	10.6 (7)	12.1 (8)	16.7 (11)	10.6 (7)	0.0 (0)	9.1 (6)	
	7.6 (5)	3.0 (2)	12.1 (8)	18.2 (12)	18.2 (12)	31.8 (21)	6.1 (4)	1.5 (1)	1.5 (1)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (3)	3.0 (2)	19.7 (13)	25.8 (17)	24.2 (16)	13.6 (9)	3.0 (2)	6.1 (4)	[環境・設備等] 他の項目と比較すると学習環境の評価が高かった。資格関連科目については1クラス40名程度での授業実施が多く、大教室・大人数での授業が少ないことがその理由かもしれない。
	6.1 (4)	6.1 (4)	13.6 (9)	27.3 (18)	25.8 (17)	15.2 (10)	6.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.5 (1)	0.0 (0)	13.6 (9)	15.2 (10)	31.8 (21)	19.7 (13)	7.6 (5)	7.6 (5)	3.0 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	6.1 (4)	3.0 (2)	19.7 (13)	22.7 (15)	36.4 (24)	10.6 (7)	0.0 (0)	1.5 (1)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

興味深いことに、学科平均で見ると、すべての項目についてAと解答した学生の割合は学内平均よりも低いですが、A+B評価にすると半数の項目で学内平均を上回る。学生の取り組みと学習環境に関する項目で学内平均を上回っている一方で、授業の教え方の項目が学内平均を下回っていた。学科の授業の特性として、理系の知識を必要とし、それをベースにした実験・実習を行うため、授業の内容には当然難解な部分もありAをつけるのは難しいが、資格取得のため努力して取り組んだ結果Bという評価をする、ということなのかもしれない。しかしながらそれを理由に、現状のままでよいというわけではもちろんないので、学科の授業内容の特性を踏まえた上での、さらなる改善の取り組みが必要であろう。

4.今後の方針

学科の開設している科目の特性を踏まえた上で、授業への能動的・積極的な参加と学習意欲のさらなる向上を図ることが必要になるであろう。具体的には、① 専門の基礎科目を必修化した新カリキュラムを履修している1～2年生の今後の状況の確認、② それに基づく基礎科目の指導体制のさらなる充実、③ 実習・演習の多い応用的な専門科目の内容の工夫とそれらに必要な機器設備の充実、④ それらを円滑に行うための学科内での情報交換、などに取り組んでいきたい。また学科として、とくに理系科目の基礎学力が不足している学生が、授業に積極的に参加し学習意欲を向上させるような取り組みも必要であろう。